２０２０年度　第５回運用容量検討会　議事録

日　時：２０２１年3月２６日（金）　１３：３０～１５：３０
場　所：Web 開催
出席者：
　阿彦　幸一（北海道電力ネットワーク株式会社　工務部系統運用グループリーダー）
　上石　晃　（東北電力ネットワーク株式会社　電力システム部給電グループ課長）
　菊田　政雄（東京電力パワーグリッド株式会社　系統運用部系統運用計画グループマネージャー）
　甲斐　静治（中部電力パワーグリッド株式会社　系統運用部系統技術グループ課長）
　山田　義徳（北陸電力送配電株式会社　電力流通部系統運用・保護チーム統括課長）
　沢井　一智（関西電力送配電株式会社　系統運用部系統技術グループチーフマネジャー）
　保田　創　（中国電力ネットワーク株式会社　系統運用部系統技術グループマネージャー）
　鍋島　晃　（四国電力送配電株式会社　系統運用部給電グループリーダー）
　中澤　雅明（九州電力送配電株式会社　系統技術本部電力品質グループ長）
　飯塚　俊夫（電源開発送変電ネットワーク株式会社　変電・系統技術部系統技術グループリーダー）

事務局
　石井　幹也　（電力広域的運営推進機関　運用部長）
　田治見　淳　（電力広域的運営推進機関　運用部担当部長）
　多田　光伸　（電力広域的運営推進機関　運用部マネージャー）
　田中　孝明　（電力広域的運営推進機関　運用部マネージャー）
　寺島　正浩　（電力広域的運営推進機関　運用部）
　後藤　光　　（電力広域的運営推進機関　運用部）
　山内　賢一　（電力広域的運営推進機関　運用部）
　中澤　佳経　（電力広域的運営推進機関　運用部）

配布資料
　1　　東北東京間連系線（東京向）下げ代不足が想定される場合の運用容量の反映について

議題１：東北東京間連系線（東京向）下げ代不足が想定される場合の運用容量の反映について

事務局から資料１を説明後、議論を行った。

〔主な議論〕○検討会　●事務局

○：当面は今回の想定条件で試行し、今後、想定と実績の差異分析を行い、必要に応じて見直しを行うことは理解した。一方で、想定誤差量を算出する際に用いる「表１　各出力帯における最大誤差量」を平日・休日に分ける方法は、運用容量検討に使用する独自のものであると認識している。平日・休日別にした場合、サンプリング数が少なくなり、各出力帯でバラツキが生じ、適正な誤差を見込めない可能性があることから、実際の再エネ出力抑制時には平日・休日の区別なく、最大誤差を使用することにしている。このため、運用容量検討の考え方と再エネ出力抑制の検証における考え方で整合がとれなくなることを懸念している。また、今回、他エリアにも再エネ出力抑制の検証における基本的な考え方へ影響がないか確認が必要ではないか。

●：東北エリアの想定需給バランスに織り込む想定誤差量は、運用容量に直結するという特殊性を持っており、精緻に想定するという観点から、平日・休日に分けて想定する方法が適切であると考えている。よって、この特殊性から今回の方法は、東北東京間連系線（東京向）運用容量の根拠となる東北エリアの想定需給バランスに織り込む想定誤差量として適切なものであり、他エリアの再エネ出力抑制の検証における基本的な考え方とは異なるものであると考える。ただし、万が一、他エリアの再エネ出力抑制の検証における基本的な考え方が影響を受ける場合は、東北エリアの想定需給バランスに織り込む想定誤差量の想定条件を見直すことを検討する。

以　上